



# 佐世保自衛隊後援会だより

（発行）  
佐世保自衛隊後援会  
会長 金子 卓也  
佐世保市湊町6番10号  
（佐世保商工会議所内）  
TEL (0956) 22-6121

佐世保自衛隊後援会



ホームページ

## 新年のご挨拶

佐世保自衛隊後援会 会長 金子卓也

明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、国際情勢が不確実性を増す中、東アジア情勢の緊迫度も高まり、これまで先人たちが長い時間をかけて築いてこられた平和への枠組みが脅かされた一年でありました。

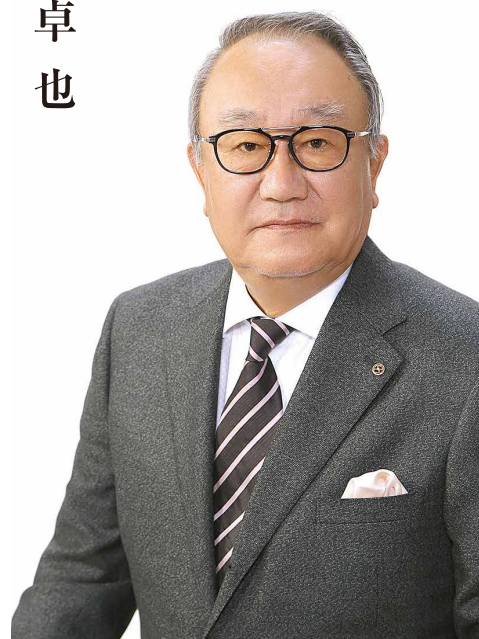
このような状況の中、自衛隊の皆様は365日、24時間、休むことなく絶えず国防の最前線に立ち、我が国の安全・平和維持、さらには大規模自然災害等における救助・復旧活動においても大いに活躍頂いております。本年3月には竹松駐屯地に第3水陸機動連隊が新編されることとなっており、南西地域等における島嶼防衛能力の強化が図られます。自衛隊に対する国民の信頼と期待は、段と増しており、自衛隊を支援する当後援会といえども、全会員一丸となって隊

員皆様が円滑に任務遂行できますよう支援していく所存でございます。

さて、昨年当後援会は市民の皆様、自衛隊活動への理解を深めて頂く活動の一環として、陸上自衛隊への1泊2日の体験入隊を初めて実施いたしました。参加者からは、自衛隊に対して改めて尊敬の念を抱くとともに、隊員との交流を通じて自衛隊に親しみを感ずることができたと好評でした。また、婚活事業も開始し、若い自衛官と地元の方との交流促進を図っております。

自衛隊への入隊を志望する学生の減少も深刻な状況です。これには、学生はもろろんのこと、幼少の頃から自衛隊に憧れや親しみを持っていた、子どもなども重要と考え、佐世保自衛隊パレードなど市民向けイベントの支援にも引き続き取り組んでおります。

基地とともに発展してきた当地佐世保は、緊迫する東アジア情勢の中で益々重要な拠点となります。



地元企業が自衛隊の仕事を着実に受注できる支援体制の充実、防衛産業企業を呼び込む受入体制の強化を図るとともに、基地がその機能を最大限に発揮できる環境を整備すること、基地との「共存共栄」を深めて参りたいと存じます。

また、昨年度により今後5年間の防衛予算が43兆円と示されましたが、この中には自衛隊員の処遇改善も含まれております。官舎の改善など住環境の整備がなされ、自衛官の皆様がご家族帯同で喜んで佐世保に赴任していただける環境の整備を、引き続き行政に働きかけていきたいと思います。会員の皆様には、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様はじめ、自衛隊員の皆様並びにご家族様の今後益々のご多幸とご健勝を祈念申し上げます。

2024（令和6）年元旦



12/13 梨木団長、入江2連隊長、溝口高級幕僚 離任挨拶



12/4 青年部・COMPASS21合同による倭総監表敬訪問



12/25 北島団長、辻2連隊長、阿部高級幕僚 着任挨拶



12/5 第6期水陸両用レンジャー帰還式

■大村航空基地見学  
12月1日、海上自衛隊大村航空基地見学が実施され、当後援会を含む5団体から16名が参加した。第22航空群司令 鈴木克哉海将補より概況説明の後、フライト・シミュレーター体験や、ヘリコプターの体験搭乗が行われた。大村航空基地は、航空部隊として周辺海域の防衛警備はもとより、災害派遣や離島からの急患輸送等においても重要な役割を果たしている。

### ■青年部による倭総監表敬訪問

12月4日、SASEBO COMPASS 21と当後援会青年部合同による、倭総監への表敬訪問を実施。各団体の活動内容等について紹介し、倭総監からは引き続き地域の皆様と連携を図りながら取り組んでいきたいと話をされた。

### ■第6期水陸両用レンジャー帰還式

相浦駐屯地で12月5日、第6期水陸両用レンジャー帰還式が行われ、24名の隊員たちは家族・部隊の同僚らによる拍手と歓声を浴びながら帰還した。山地機動や水路潜入など約3ヶ月半にわたる過酷な訓練を乗り越えた証としてレンジャー徽章が授与された。

### おめでとうございます

長年にわたる自衛隊への支援協力を称え、感謝状が贈呈されました。

第四師団長感謝状  
橋高克和 副会長  
陸上幕僚長感謝状  
馬郡謙一 常任理事

### ■海上自衛隊クリスマスコンサート

12月16日、海上自衛隊佐世保音楽隊のクリスマスコンサートがアルカスSASEBOで開催された。会場には大勢の観客が詰めかけ、「ジャズの街・佐世保」をコンセプトにした豪華な演奏に酔いしれた。ゲスト・クラリネット奏者 谷口英治氏制作の佐世保地方隊創設70周年記念曲『西海に渡る風 The Riffs Over The Sea』も初披露された。

### 2023年11・12月異動のお知らせ

#### ■海上自衛隊

##### ■転出者（異動先）

- ・佐世保教育隊司令 1佐 吉田太郎（教育航空集団司令部 幕僚長）
- ・第13護衛隊司令 1佐 小林卓雄（海上幕僚監部 防衛部防衛課長）

##### ■転入者（前職）

- ・佐世保教育隊司令 1佐 井上貴嗣（八戸航空基地隊司令）

- ・第13護衛隊司令 1佐 渡邊達也（情報本部）

#### ■陸上自衛隊

##### ■転出者（異動先）

- ・水陸機動団長 兼ねて相浦駐屯地司令 陸将補 梨木信吾（陸上総隊司令部 運用部長）
- ・第2水陸機動連隊長 1佐 入江一博（教育訓練研究本部 総合企画部 総合企画官）
- ・水陸機動団本部高級幕僚 1佐 溝口光章（教育訓練研究本部 訓練評価部）

##### ■転入者（前職）

- ・水陸機動団長 兼ねて相浦駐屯地司令 陸将補 北島（西部方面総監部 幕僚副長）
- ・第2水陸機動連隊長 1佐 辻一（陸上総隊司令部 運用部 運用課長）
- ・水陸機動団本部高級幕僚 1佐 阿部俊文（第5陸曹教育隊長）



長崎県防衛協会会長  
長崎県知事  
大石賢吾



新年明けましておめでとうございます。

佐世保自衛隊後援会の皆様、そして自衛隊及び関係団体の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

佐世保自衛隊後援会におかれましては、日頃から、自衛隊に対する理解の促進や海上自衛隊佐世保地方隊、陸上自衛隊相浦駐屯地等の活動への協力・ご支援・激励など幅広く活動され、成果をあげておられますことに深く敬意を表します。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境を振り返りますと、ロシアのウクライナ侵略や北朝鮮の度重なるミサイル発射など一層の厳しさを増し、様々な課題や不安要素が顕在化しております。

このような不安定な国際情勢の中、自衛隊の皆様は、「わが国の平和と独立を守り、国民の安全を確保する」という崇高な使命のもと、日々厳しい訓練を重ねられ、国家防衛、災害派遣活動、国際平和維持活動などを得られております。

本県におきましても、雲仙普賢岳噴火災害における派遣活動をはじめ、その他多くの自然災害に伴う災害派遣に活動していただいております。海上自衛隊による離島地域からの急患搬送は、昭和33年の開始から既に約5,200回を超えるなど、多くの県民の命を救っていただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

また、本年3月には大村市に所在する陸上自衛隊竹松駐屯地への第3水陸機動連隊が新編されることとなっており、国境離島をはじめ多くの離島を有する本県としましては、非常に心強く思っております。

今後とも、長崎県防衛協会といたしましては、佐

佐世保市長  
宮島大典



あけましておめでとうございます。

佐世保自衛隊後援会の皆さま、自衛隊及び関係団体の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと可喜び申し上げます。

佐世保自衛隊後援会におかれましては、日頃から自衛隊の発展と地域経済の発展に寄与するため、数々の活動を続けておられますことに深甚なる敬意とともに感謝の意を表する次第であります。

昨年4月の市長選挙におきまして、市民の皆さまから厳粛なご信託と温かいご支援を賜り、佐世保市長として市政の舵取りを担わせていただくことになりました。以来、多くの方のご指導、ご鞭撻をいただきながら、市民の皆さまのご期待に応えるべく、市政に取り組んでまいりました。

本年も市民目線、対話重視を基調とし、今後の佐世保

市政の大きな指針になるべく私の「99の政策」を職員と丸ごと一ツラッシュアップを行い、「させほのまち」をより良いまちにしていきたいと思います。

さて、現在の国際情勢を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵略が継続する中、中東においてもイスラエルとパレスチナ武装勢力間で軍事衝突が勃発し、多くの一般市民が犠牲となる深刻な状況になっています。また、我が国を取り巻く安全保障環境においても、中国海空軍による東シナ海などでの活動の活発化、北朝鮮による弾道ミサイル技術を使用した発射事案、台湾問題など、今まで以上に緊張感が増しており、様々な不安定要素が顕在化しております。

このような中、自衛隊の皆さまは「国防」という崇高な使命のもと、我が国周辺空海域の警戒監視や海外での活動に加え、大規模自然災害にも即時に対応できるよう日々訓練に精励されておられますことと国民の一人として深く感謝する次第です。また、このような自衛隊の活動を佐世保自衛隊後援会の皆さまが支援し

ておられますことは、大変意義深いことと存じます。日々の訓練や演習でお忙しいにもかかわらず、昨年は佐世保地方隊創設70周年ということもあり、たくさんの方の自衛隊イベントを佐世保市内で開催していただきました。佐世保自衛隊後援会のご支援による佐世保地方総監部や水陸機動団主催のイベントは、基地のまち「佐世保」を特徴たらしめるものであり、このようなイベントによる交流を通じて、市民の自衛隊への理解が深まるとともに、地域経済への発展にも寄与していると高い評価を得ております。

佐世保市といたしましても、基地の所在によってもたらされる経済・雇用、地域活力といった効用を広く市民が享受できるように、基地の所在を積極的

に活かしたまちづくりの推進に取り組んでまいりますので、皆さまにおかれましても、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。佐世保自衛隊後援会会員の皆さまをはじめ、自衛隊員の皆さまならびに、家族様のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともに、本年も素晴らしい年となりますようお祈りいたしまして、新年のごあいさついたします。

佐世保地方総監  
海將 俵 千城



新年おめでとうございます。

佐世保自衛隊後援会の皆様におかれましては、令和6年の新春を穏やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。皆様には、平素から海上自衛隊の諸活動に対し、深い御理解と温かい御支援、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年8月29日に第48代佐世保地方総監を拝命し、約4か月が経過しました。西海鎮護の要として、帝国海軍からの歴史と伝統が息づくこの佐世保の地において、勤務できることは身に余る光栄であり、その重責に改めて身の引き締まる思いです。佐世保地方隊の指揮官として、良き伝統をしつかりと引き継ぎつつ、即応態勢の維持・強化に邁進する所存です。さて、皆様もご認識のと

「平素からの闘い」に勝ち抜くとの強い意識と覚悟を持つように、そして、勤務方針である「上下一心」をもつて全隊員が心を一つにして任務に邁進するように指導しております。佐世保地方隊は対馬海峡と南西諸島によつて隔てられた戦略的に重要な東シナ海を含む広い警備区を担当しています。隊員は、「平素からの闘い」の最前線で勤務する防人であるとの自覚と誇りをもつて、日々額に汗を流して頑張っております。

結びに、佐世保地方隊は昨年、創設70周年の節目を迎えることができましたことは偏にこれまでの皆様から頂いた御支援、御協力のおかげです。ここに改めて感謝申し上げますとともに、本年も引き続き、海上自衛隊佐世保地方隊に

対して、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒お願い申し上げます。令和6年が佐世保自衛隊後援会の皆様、そして我が国にとりまして、平和で穏やかな年となることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

佐世保自衛隊後援会の皆様、そして自衛隊及び関係団体の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと可喜び申し上げます。

水陸機動団長兼相浦駐屯地司令  
陸将補 北島 一



明けましておめでとうございます。

佐世保自衛隊後援会の皆様及びご家族におかれましては、令和6年の心穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には平素より陸上自衛隊水陸機動団及び相浦駐屯地に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。まず初めに、昨年12月22日付をもちまして水陸機動団長兼ねて相浦駐屯地司令を拝命しましたことを、報告申し上げます。精鋭として名高い水陸機動団で勤務できることは大変光栄であり、同時にその重責に身の引き締まる思いです。梨木前団長の後を引き継ぎ、皆様との連携を密に任務に邁進して参る所存ですので、変わらぬ御指導の程よろしくお願い申し上げます。

さて、我が国は、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しています。力による一方的な現状変更やその試みは、法の支配に基づく国際秩序に対する深刻な挑戦であり、今も続くロシアによるウクライナ侵略は、最も苛烈な形でこれを顕在化させています。国連安保理の常任理事国たるロシアがこのような明確な侵略行為を行ったことは大きな衝撃でした。そして同じようなことが我が国周辺で起こるようなことがあつては絶対になりません。戦争を未然に防ぐためには、国を確実に守り抜く力をもつて、他の国に「日本を攻めても目標を達成できない」と知らしめることが必要であり、我々水陸機動団もその翼を担うべく能力を高めて参る所存です。

水陸機動団は、本年、創設60周年を迎え、海上自衛隊や航空自衛隊との統合訓練、海兵隊を中心とした米軍との共同訓練、そして多くの同志国との共同訓練を繰り返してきました。また、国内においても警察、海上保安庁との連携を深めることにより、部隊の能力を着実に

積み上げてきています。そうした中、本年3月に第3水陸機動連隊等が竹松駐屯地に新編されることにより、これまで以上に部隊としての即応性が向上するとともに、各種事態への対応等、幅広い任務の遂行が可能となり、南西地域等における島り、防衛に係る抑止力・対処力を強化できると考えています。

本年も予断を許さない国際情勢の中、自衛隊の責務は、層重く、国民、地域の皆様からの期待もより大きくなつてい